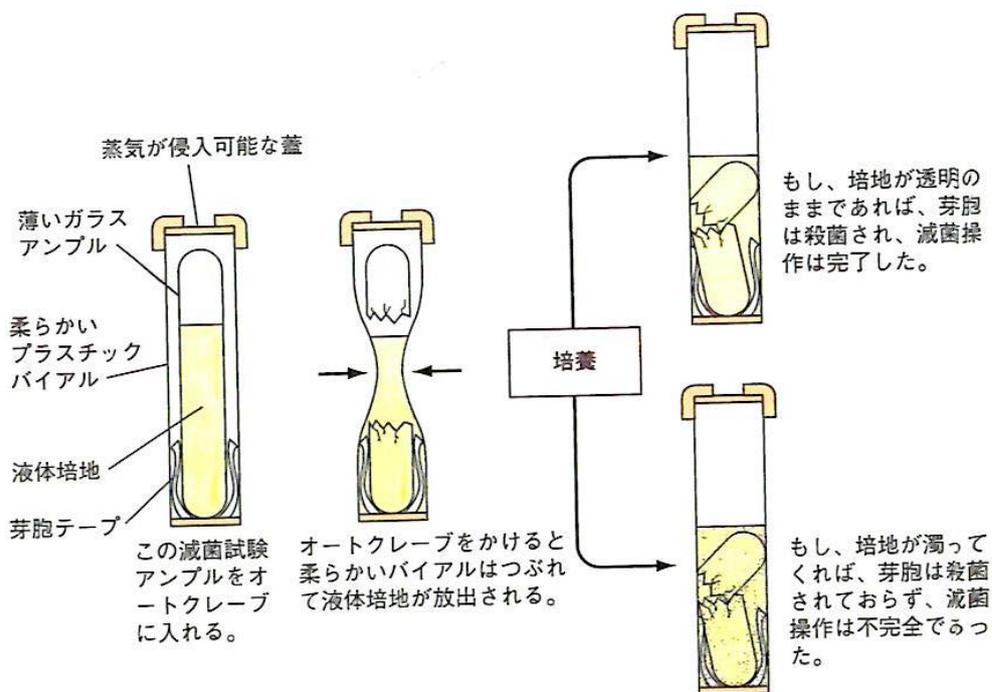


滅菌の管理

アメリカ疾病管理センター（CDC）はオートクレーブの運転状態を管理するために、毎週1回バチリスステアロサーモフィラス *Bacillus stearothermophilus* のような耐熱性芽胞を入れた培地をオートクレーブすることを勧めています。この操作を容易にするために芽胞テープが市販されています。これは芽胞テープと培地の入ったガラスアンプルをプラスチックのバイアルに入れたものです。このバイアルを滅菌する物の中心に置き、オートクレーブをかけます。圧力で内部のアンプルが壊れ、培地が放出されます。オートクレーブ終了後これをそのまま培養します。もし菌の増殖が認められなければ、滅菌処理が完全に行われたと考えます。

培地に指示薬が含まれている場合は、菌が増殖することで産生される酸性代謝物により培地の色が変わります。これは菌が充分増殖して培地が混濁することを待つより早く確認できます。



引用文献：ブラック 微生物学 林 英生・岩本愛吉・神谷 茂・高橋秀実 監
訳 丸善株式会社